

週報2023年2月5日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年2月5日

ピアノ: 赤松姉 オルガン: 力丸勝子師

司会: 大熊ひとみ姉 献身の祈り: 阪本兄 メッセージ: 山崎師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 155「御位を降り」	
祈禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *	
賛美	新聖歌 233「驚くばかりの」	
献身の祈り		阪本兄
賛美	新聖歌 325「歌いつつ歩まん」	
賛美	コーラス 60「もうふりむかない」	
聖書箇所	ヨシュア記 3章 1-4節	
説教	「あなたがたの行くべき道」	
祈禱	「応答の祈り」	
聖餐式	奉仕者: 大熊兄・吉田兄・吉武姉・小松姉	
頌栄	「主の祈り」	
祈禱		山崎師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

ヨシュア記 3章 1-4 節 「あなたがたの行くべき道」

ヨシュア記は神がモーセの後に、リーダーとしてヨシュアを選び、そのヨシュアがイスラエルを率いて、約束の地カナンを目指すという内容です。この書物の大きな特徴は書物の大半、イスラエルによるカナン侵入、占領といった軍事行動が書かれている事です。

ヨシュア記は一見、残虐であり残酷です。しかし、“人間が本当に追い払うべき事”をこの書物から学ぶ時、ヨシュア記が本当に伝えたいことが見えて行きます。それは、当時カナン地方で横行していた、性的不道徳、人身供養と言った偶像礼拝を絶やす事です。聖絶とは聖なる神の愛が心を占め、悪しき習慣を追い出す事です。

ヨシュア記が投げかけている質問は“人は何の為に戦うのか？”それは“本来自分の心を占めるもの”を取り返す為です。この戦いは主の戦いです。今日の箇所が教えている事は“主がいつも戦う者の先に立たれ、勝利を与えて下さる”と言う事です。私達は信仰の戦いを通じて、勝利を得ます。その勝利とは、神の愛が心を占める事です。

ヨシュア記 3 章はヨルダン川の川岸から始まります。神がヨシュアに命じた事は、民を率いてヨルダン川を渡る事でした (1:2)。このヨルダン川を渡ってカナンの地に入っていきます。しかし、ヨルダン川は春の時期、川岸一杯に水が溢れます。つまり、歩いては絶対に渡れない事を示唆しているのです。しかし、主の命令は「(歩いて) 渡りなさい」でした。

主は単に歩いて渡る事を命じていません、主の契約の箱をレビ人(祭司)が担ぎ、最前線に配置して渡らせることを命じました。その理由は「あなたがたの行くべき道を知るため」と主は語れました。つまり、この道に真っ先に進み行かれ、戦ったのは主だったと言う事です。それは後に続く者が**勝利出来る道筋**をつくるためです。祭司が足を踏み入れた瞬間、海から流れてくる水がせき止められ、渴いた土地

を渡り、ヨルダン川を渡り切りました。彼らが知った“行くべき道”とは“信仰によって得る勝利の道”です。

偉大な指導者モーセがいない、ヨルダン川を渡る橋がない。私達の信仰生活の中でも、これさえあれば問題の解決になる、そういうものが見当たらない時があります。しかしその時は、私達が本当に行くべき道を知るチャンスです。私達に一番必要なものは、優れたリーダーシップや豊富な経験、富や知識ではありません。主に対する信頼によって得た勇気、そして踏み出す一歩です。

ヨシュア記は神の残虐性を書いているのではありません、神を見失った人間の行く末にある、残虐性が書かれています。例え不道徳であっても肉体の欲求を満たし、例えそれが悪い事だとわかっているても弱者を蔑んでしまいます。いつの時代も犠牲者は弱い(とされる)人です。人が争うのは強者と弱者を明確にするためです。弱い人になりたくない。だから人は争うのです。聖書は人の争いを隠しません。

主は全ての先に立たれて戦われた方です。何の為に戦ったのかと言うと、本当の勝利を私達に教える為です。本当の勝利とは、本来私達が満たされるべき神の愛が心を占めて行く事です。つまり、十字架の死と、復活による人類の贖いです。イエス様は傷つき、虐げられ、弱者にされても、行くべき道を進み続けました。それは後に続く人が“偽りの勝利”に満たされる事を止めて、本当の勝利で満たされる事を願っています。

私達は戦う理由と相手を間違える時があります。言い換えると“何の為に勝利か？”考える必要があります。名誉、富、地位等。実はこれらのものを失っても人生は敗北ではありません。確実に言えることはいつも主が共におられると言う事です。(1:3) 主の愛が心を占める人生は例え敗北者と指さされても、主の目には“勝利者”です。私達が進むべき道に一歩踏み出せるよう、主を信頼して参りましょう。

ヨシ 1:5 あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。